

平成 25 年度地域医療・介護連携推進事業 一関コミュニティFM (FM あすも) 番組

平成 26 年 3 月 26 日 (水) 17:20~17:30 (塩竈一常 GET KING!!)

(再放送: 3 月 30 日 (日) 9:10~9:20 REFRESH!!)

「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」

第 4 回放送 一関薬剤師会 会長

かたくり薬局 管理薬剤師 小笠原慈夫先生

(聞き手: 塩竈一常)

**塩竈** さて、「医療と介護の窓～みんなで育てよう地域医療～」のコーナーです。今日スタジオにお越しいただきました一関薬剤師会会長、小笠原慈夫さんです。小笠原先生、よろしくお願いいいたします。

**小笠原** よろしくお願いいいたします。

**塩竈** さて、今日、小笠原先生にお伺いしていきますのは、この一関薬剤師会、まずはその活動の状況から伺っていきたくと思います。小笠原さん、この薬剤師会というのは何人位の皆さんが登録されているんでしょうか。

**小笠原** 今現在 175 名ですね。

**塩竈** 一関市内には、様々なそのお薬を取り扱っているところがありますけれども、こういったところにいらっしゃる薬剤師の皆さんが登録されているということなんですね。

**小笠原** はい。そうです。

**塩竈** 小笠原さんがいらっしゃる場所も薬局をされているということですが、場所はどちらの方になりますか。

**小笠原** 生協さんの近くなんですが、住所でいうと上坊ですね。

**塩竈** そうですか。かたくり薬局さん。

**小笠原** はい、そうです。

**塩竈** 皆さんも、お馴染みですとかね、そうい

った方々多いのかなと思います。先生、かかりつけのお医者さんというのがありますけども、かかりつけの薬局というの、やっぱりあった方が良いものなんですか。

**小笠原** 絶対あった方が良いでしょうね。

**塩竈** こういったところのお話しもね今日はちょっと伺っていきたくと思うんですけども、まずは、この一関薬剤師会。普段どんな活動をされているかというところから伺っていきたくと思います。まずは、様々な地域で講演会などがあるそうですね。これは、どういった内容ですか。

**小笠原** はい。これは、一関市のですね健康づくり課より講師依頼がありまして、各旧市町村、8ヶ所あるんですが、そこで講師として薬剤師が行ってお話しをするという形で実施しております。

**塩竈** これの中身は、より効果を良くするお薬の飲み方とかこういった指導になるんですか。

**小笠原** そうですね。内容としては、「薬の正しい使い方」、あるいは「サプリメントと健康」、あるいは「薬と健康の話」、中には「お薬手帳の活用」等々がありますね。

**塩竈** 様々な講演会がありますので、もしかしたら聞いていらっしゃる皆さんも、お近くで参加された方多いかもしれません。それから、「一関健康まつり」というのが、年に行われますけれども、こちらにも参加されているそうですね。

**小笠原** はい。そうです。これは、日本薬剤師会の企画でですね、「薬と健康の週間」というのが毎年10月に行われてます。この一関ではですね、この一関の健康まつりに参加という形で、我々としては薬と健康の週間ということで実施をしております。その中でですね、今年も2月23日に行われたんですが、この中でも「薬の何でも相談会」、あるいは「体脂肪の測定会」。これは2月ということもあるのですが、皆さんが食べ過ぎ、あるいは運動不足ということもあったのでしょうか。そういうことで、この体脂肪測定会がですね大変長蛇の列ができて、お待たせをするくらいの盛況ぶりであります。

**塩竈** 何かの形で、この調剤薬局さんとかのお世話になる時には、この薬剤師の方というのは、本当に丁寧にいろいろ説明していただいたりするんですけども、先ほど先生からもお話ありましたとおり、サプリメントとかこういった物っていうのも、今は周りにこう沢山ありますので、飲み合わせであったりとかその活用法というのもいろいろ学ばなければならないことっていうのは沢山ありそうですね。

**小笠原** ありますね。はい。

**塩竈** このほかにも、学校薬剤師としての活動というのがあるそうなんですが、これはどういったものなのでしょう。

**小笠原** これは、薬剤師会の会員なんですが、市の教育委員会、あるいは県の教育委員会の委嘱を受けている薬剤師でございます。

**塩竈** こういった取り組みがあるっていうことですね。このほかにもですね、この一関薬剤師会の方では、特に岩手県の県南にあるこの一関の町ということで、この地域に根差した活動というのも多く行っているというふうにお伺いしました。まずは、1つ目が自殺防止対策事業ということで、これはどういった内容でしょうか。

**小笠原** これはですね、我々薬剤師が「ゲートキーパー養成講座」ということで、我々薬剤師

がゲートキーパーになって、自殺を防止するということなんですが、我々も勉強しなければだめなもんですから、県の方から専門家を呼んだり、病院の臨床心理士をですね呼びして勉強会をします。その中で、我々調剤薬局で患者さんとお話する中で、眠れないとか、悩み事があるとかっていうことを良く聞いて、ひとりでも多くの命が救われれば良いなというふうを考えてやっているところでございます。

**塩竈** さらにですね、「脳卒中予防対策の研修会」こういったのも行われているということなのですが。

**小笠原** これは、脳卒中というのはご存知の通り日本でワースト1、これが岩手県になりました。その中でもですね、この一関地方、奥州地方が1番ということなんです。岩手県の中でも。

**塩竈** 全国の中でも岩手県というのがワースト1、そのうち県南地域というのはより悪い数字というのが出ていると。

**小笠原** そうなのですよ。特に、脳卒中と言うと、脳梗塞、あるいは脳出血、そしてくも膜下出血を言うんですが、今回保健所さんの主催でですね研修会を実施いたしました。これは、キャリアアップ研修会っていうことなんですが、今年度は市民の皆さんも対象にしてを含めまして6回実施いたしました。今後、我々薬剤師会としては、特に降圧剤、血圧を下げる薬なんですが、飲んでる患者さんを特に対象にしまして、この血圧上昇というのは、冬場が割と多いんですが、冬場お薬飲んでて、暖かくなると、血圧が正常値に戻るということで、やめる人がいるんですね。中止する方がいます。お医者さんの指示受けないで、中止する方がいるというような方もいらっしゃいますので、服薬指導の中でしっかりとこれを指導していかなければならないだろうというふう考えております。

**塩竈** なるほど。同じ薬を飲むという習慣でも、地域によってですとか、それから環境とかいろんなものによって飲まれ方っていうのが違う訳ですから、地域の特性を見極めていくっていう

のがとても大事なんですね。

**小笠原** そうですね。

**塩竈** この様に、地域に根差して、脳卒中の予防対策、さらには、先ほどお話をうかがいました、自殺防止対策などの取り組みもされています。さて、今日はスタジオにお越しいただいています一関薬剤師会の小笠原会長なんですけれども、小笠原さん、先ほどねお話の中で「お薬手帳」という言葉が出てきました。私も最近、調剤薬局さんに出かけたりとかする機会がありまして、その自分のお薬手帳っていうのはしっかりと管理していかなければいけないと身に染みて思ったんですけれども。この大切さについて、今日はお伺いしていきたいと思います。

**小笠原** まず、お薬手帳というのは、例えば複数の医療機関にかかっている方なんですけど、その中で併用薬の確認ができるということ。そして、飲み合わせですね。これも、相互作用が防止できるということ。また、重複投与の防止ということで、商品名が違っててもですね、同じ成分の含有している薬も多いわけでございます。皆さんもご存じの通り、ジェネリック医薬品というのが多く出回ってますので、そういうこともしっかりと重複投与の防止ができるということが言えると思います。またですね、一番分かりやすいのでは、例えば救急車で病院に運ばれた際にですね「何をその患者さんが飲んでるか」というのを確認できるっていうことで、病院の先生方それで大変助かっているという声を聞いております。

**塩竈** お薬でも、やっぱり飲み合わせであったりとか、使い合わせによっては、やはり良い効果だけでなく、怖い効果が出てしまったりするものもあるわけですね。こういうのを防ぐために、自分自身のそのデータというのをしっかりとそこに記録しておく。そのツールとしては、このお薬手帳本当大事なんですね。

**小笠原** そうですね。特にお願いしたいことなのですが、複数の医療機関に通っている患者さんですね、医療機関ごとに手帳をお持ちの方がいらっしゃるんですよ。そうすると、併用薬

が全然分からないということが。

**塩竈** この病院に行った時には、このお薬手帳で、次の病院に行ったらこっちの手帳でってなると。

**小笠原** それは、絶対にやめていただきたい。

**塩竈** ひとつの手帳の中で一元的に管理していくということがすごい大事ということなんです。

**小笠原** そうですね。

**塩竈** 聞いていらっしゃる方の中で、お薬手帳、そういえば持っている方ももちろん多いかと思いますが、あらためてその使い方もしっかり心がけていただきたいと思います。ご自身のお薬手帳ですけれども、家族の皆さんにも、すぐにどこにあったかな分かるように伝えておくのも大事ですね。

**小笠原** そうですね。それも、しっかりやっていただきたいと思います。

**塩竈** さて、この他なんですけれども、こういったお薬手帳を持って病院に出掛けるといってですねこういった体力がある方っていうのは勿論なんですけれども、ご自宅で療養されている方、在宅されてる方々もいるわけです。こういった方々への服薬の管理というのもこの薬剤師会の方では取り組むということなんです。

**小笠原** 特に、我々薬剤師の行う「在宅患者訪問薬剤管理指導」なんですけど、これはですね、お医者さんからの指示と患者さん、あるいはその家族の方の同意に基づいて、この在宅を開始するということになる訳です。患者さんの状態に適した調剤ということなんですけど、医師の指示、または医師との相談のうえで、例えば、在宅の方で、錠剤カプセルを飲めない方、あるいは、朝、昼、夕と飲むんですが、数が多いために、バラバラに飲んでいらっしゃると思うんです。その時に、錠剤カプセルを粉砕にして、あるいは一包化にしてあげるといようなことをやっています。当然調剤した後にです

ね自宅までお届けする。後は、お届けした際に  
ですね、薬の使用法とか、保管の方法などに  
関してですね情報提供するということですね。  
同時に、患者さんの状態、あるいは飲み忘れ、  
薬を在宅でやっている方で、飲み忘れて残薬が  
沢山あるというようなことの確認をいたします。  
その中で、有効性や副作用の有無などの判断を  
して、問題があればお医者さんへの報告を行う  
ということになります。

**塩竈** それぞれのその立場でこの医療機関で  
あったりとか利用される方、また介護施設であ  
ったりとかそういった役割というのがある訳で  
すけれども、一関薬剤師会さんの中でもそのサ  
イクルの中でね、様々な取り組みをしていると  
いうことが今日分かりました。さて、小笠原先  
生、これまで出ていただいた先生の中でもお話  
しが出てくるんですけども、やはり、そのかけ  
りつけと言いますかね、古くからやっぱり顔馴  
染みであるお医者さんであったりとか、こうい  
ったものっていうのはすごく大事なというふう  
に思ったんですけども、今日、お話聞いて  
くるとこういった調剤薬局さんであったりとか、  
こういった薬剤師さんでもこういった顔馴染み  
の方と言いますか、かけりつけの方をつくる  
というのは本当に大事ですね。

**小笠原** そうですね。しっかりとこの辺は同じ  
病院を受診なさった時にはですね、いつもの行  
っている薬局さんでですね調剤をすることが一  
番大事です。そして、知り合いになっていると  
色々な情報が患者さんの状況が分かりますので、  
そういうふうな形でやっていただければと思い  
ます。

**塩竈** 先ほどの飲みやすさについてもね、いろ  
いろ工夫されたりとか、それから組み合わせで  
あったりというところもいろんな相談に応じたり  
という話がありましたけれども、より長い  
お付き合いになってきますとね、そういったと  
ころも大変分かりやすく意思疎通ができるのか  
なというのを感じたりしました。お話しの中  
では、とても大事なポイントが沢山ありましたけ  
れども、特にそのお薬手帳の管理というのは  
本当に大事ななというところを感じましたので、

皆さんもあらためて心掛けていただければと思  
います。では、小笠原先生から最後にラジオを  
聞いている皆さんに一言、お願いいたします。

**小笠原** はい。我々薬剤師会がですね「笑顔」  
で患者さんにとっての最初の薬だと思います。  
故郷の地域医療を支えていくことが、私達薬剤  
師の仕事。患者さんに信頼していただける薬剤  
師を目指して、患者さんの立場に立ってですね  
相談、サービスを心がけていきたいと思  
います。  
**塩竈** 今日は、スタジオに一関薬剤師会の小笠  
原慈夫会長にお越しいただきまして、お話を伺  
いました。小笠原先生、ありがとうございました。

**小笠原** ありがとうございました。